

にんじん・トンネル春どり(ベーターキャロット)

東葛飾農林振興センター

1 地区名

船橋市 JA市川市船橋人参共販推進委員会

船橋ベータキャロット組合 (2005年発足)

2 栽培戸数、栽培面積、収穫量又は出荷量、出荷先又は販売方法

- (1) 栽培戸数
(2) 栽培面積
(3) 収穫量又は出荷量
(4) 出荷先又は販売方法
- } 量販店に的確に対応できる産地として、戸数、面積ともに拡大中

市場(千住、東京シティ、船一)を通じ、都内量販店及び市場周辺の量販店へ販売

3 ちばエコ基準達成状況

区 分	実施状況	ちばエコ基準
化学合成農薬(成分回数)	6回	6回
化学肥料(窒素分量)	9.24kg/10a	10kg/10a

4 事例のあらまし

- ・馬糞堆肥で土づくり
- ・栄養価が高く、おいしい品種の導入
- ・有機質配合の専用肥料の作成
- ・環境に配慮した防除体系

↓

- ・安全で安心な商品の提供
- ・品質向上とブランド化
- ・販路拡大と人件費の出せる商品化

5 背景・動機

無登録農薬の使用問題や輸入農産物の農薬残留など、食料の安全を脅かす様々な事件が報道される中で、食料の安全・安心について、消費者はとても大きな関心を持つようになってきています。都市化が進む船橋市は56万人の人口を抱え、住居に隣接した畑で、都市住民の視線を強く感じながら日々農業を営んでいます。

安全で安心して食べられる作物を消費者へ提供するために、土づくりや減農薬にも積

極的に取り組み、JAと一体となって生産履歴記帳運動を続けてきました。また、主流品種の向陽二号に替えて、より栄養価が高く食べておいしい品種を探って、平成6年からベーターキャロットの試作にも取り組んできました。

こうした中で、安全・安心への取り組みを、より消費者の目に見える形にするため、ベーターキャロットを通して地場野菜の新鮮さを伝え、安全で安心できる野菜の提供を図り、また、ベーターキャロットのブランド化を更に推し進めて価格低迷脱却につなげていきたいと考えて、もっと安心農産物を経て、「ちばエコ農業産地」の指定と「ちばエコ農産物」の認証を受けることになりました。



6 栽培方法

(1) 土づくり・施肥

主に馬糞を原料とした完熟堆肥を施用します（2 t / 10 a）。は種直前の施用は避けて、前作までに堆肥を施して土づくりをしています。

基肥となる有機配合肥料については、ちばエコ農産物生産基準に対応した専用の肥料を、肥料メーカーと共同で作成したものです。試験栽培を行って品質の向上につながる肥料を作りました。土壌診断の結果に基づいて、無駄のない施肥を行うように心がけています。

(2) は種

発芽を良好にするために、土壌水分を十分に確保してからは種作業を行います。6月上旬までに収穫が終わるように、11月下旬から12月下旬までには種を行います。

ア 栽培管理

作業名	実施時期
は種	11月下旬～12月下旬
トンネル張り	は種後すぐに
間引き	1月中旬～2月中旬
換気はじめ	1月～
トンネルはがし	4月はじめ～
収穫開始	4月下旬
収穫終了	6月上旬

イ 使用資材

(ア) 土づくり・施肥等

(10a当たり)

使用銘柄 (N-P-K)	実施年月日	施用量	全 N	化学N
馬糞等 (土づくり)	は種2ヶ月程前まで	2 t		
船橋人参有機特号(10-12-8)		140kg	14kg	9.24kg
船橋オール有機 (6-7-2)		80kg	4.8kg	0kg
苦土重焼りん (0-35-0)		40kg		
苦土セルカ2号		60kg		
合 計			18.8kg	9.24kg

(イ) 病害虫・雑草防除等

使用農薬	対象病害虫	実施年月日	
D-D92	コガネムシ類幼虫、ネグサレセンチュウ、ネコブセンチュウ	～11月上旬☆作付の10日～15日前まで	いずれか一剤
ディトラベックス油剤	しみ腐病、センチュウ類、畑作一年生雑草	～11月上旬☆は種又は植付けの21日前まで	
キルパー	しみ腐病、ネコブセンチュウ、畑作一年生雑草	～11月上旬☆は種又は定植の15日～20日前まで	
フォース粒剤	ネキリムシ類	は種時	
トレファノサイド粒剤2.5またはトレファノサイド乳剤	畑作一年生雑草	は種直後	
ベルコートフロアブル	黒葉枯病、うどんこ病	発生初期☆収穫14日前まで	あわせて3回
DDVP乳剤50	ヨトウムシ、アブラムシ類	発生初期☆収穫3日前まで	
※Zボルドー	黒葉枯病	予防散布	
※ゼンターリ顆粒水和剤	ハスモンヨトウ	発生初期 (但し、収穫前日まで)	
化学合成農薬使用回数6回 (総使用回数8回)			

※印は、「化学合成農薬に含めない農薬」

(3) 換 気

換気により、温度調節をします。温度の上がりすぎは地上部の過繁茂を招き、葉ヤケや病害の発生を助長しますので、換気に細心の注意を払います。

(4) 病害虫対策

土壌消毒を行う場合は、地温を確保して十分な効果を上げるためにも、遅くとも11月上旬までに行います。また、ガス抜きも2回以上行います。

環境への影響を最小限に抑えるため、病気の防除ではZボルドーを予防的に散布します。ハスモンヨトウの防除には畑をよく見回って発生の初期にBT剤（ゼンターリ顆粒水和剤）を散布します。

(5) 収 穫

シミ腐病予防と良品生産のため、適期に収穫します。6月上旬までに出荷が終えられるように心がけています。

7 今後の展望等

ベーターキャロットは、従来の栽培品種である向陽二号などと比べると、栽培特性がかなり異なります。品質や揃いを更に良くするために、これからも試験をしながら努力していきたいと考えています。

また、従来の品種と比べてカロテンの含有量が多く、肉質も甘く柔らかで、生でサラダにしたり、ジュースにしてもおいしいにんじんです。この点をもっと消費者に直接PRしながらブランドイメージを高めていきます。

また、食育とも絡めて学校給食への導入を働きかけ、食の大切さや野菜のおいしさへの関心を持ってもらいます。おいしい新鮮な船橋のにんじんを子供たちに食べてもらい、地域の農業への関心を持ってほしいと思います。

船橋は、都市近郊の野菜産地で消費地に近いという利点がある反面、周辺の宅地化が進み、環境に配慮しなければ農業を続けることは困難です。

これらを克服して、新鮮でおいしい、安全で安心できる農産物の生産に、これからも取り組んでいきます。